

第六章

CONTENTS

鉱山の暮らしと文化



JR 生野駅西口

生野瓦【生野】

生野の寒冷な気候に耐えられるように、普通の瓦より硬く焼いた瓦で、カラミ石と同様に生野特有の景観を造り出しています。通称「赤瓦」とも呼ばれ、赤褐色の独特の風合いは、レトロな町をいっそう際立たせます。新設されたJR生野駅西口や、平成22年度に復元工事が行われた「旧生野鉱山職員宿舎」の一部には復元された生野瓦が使われています。

カラミ石【生野】

銅などを製錬する時にできたカスを固めたもので、鉱滓(こうさい)といえます。地元では「カラミ石」と呼んでいます。生野鉱山周辺の家の土台や塀、水路、公園のベンチなどで使用されています。各辺数10cmの直方体に成形されたカラミ石は、重さ約100kgにも及びます。口銀谷地区の但馬口番所跡近くにはカラミ石の井戸があります。



鉱山特有の町並み



マンホール【生野】

生野の町を散策する際には、足下にも気を配って歩いてみましょう。マンホールには、旧生野町時代の町木「ドウダンツツジ」、同じく町花「リンドウ」、観光名所「魚ヶ滝」、そして史跡生野鉱山の「金香瀬抗口」がデザインされています。



菊の御紋【生野】

明治9年(1876)に完成した生野鉱山新工場の正門は、昭和52年、シルバー生野(史跡生野銀山)に移転して保存されています。大小2組の門柱で、大柱は幅・奥行ともに1m、高さは4.6mあって、メートル法で作られています。コフニエによる設計で、明治政府の所有を示す「菊の紋章」が入っています。鉱山の道エリアには、他にも官営や皇室財産であったことを示す「菊の御紋」の入った施設が残っています。

鉱山施設



トロッコ軌道跡【生野】

生野の町を走っていた馬車鉄道を廃止して、大正9年(1920)に電車軌道として完成しました。市川にアーチ形に石垣を積んで、川に張り出して線路を確保。今もその美しい姿を見ることができます。当時は生野鉱山本部から生野旧駅までを、アメリカ製の6トン電気機関車が500ミリ軌道で結びました。現在、軌道の残る遊歩道として整備しています。



現在の旧北星社宅



坂ノ谷プレコン社宅

明延鉱山住宅【明延】

昭和11年(1936)頃に建設された北星社宅は現在も4棟が残っており、通称「長屋」と呼ばれています。3つの鉱山全てにこうした社宅群が建てられました。明延では7地区に次々と社宅が建設され、昭和29年頃からは最新鋭の住宅としてプレコン2階建、3階建の住宅が建ちました。北星社宅の景観は、国内でも他の地域に残っていない貴重なものです。



いわつ **【神子畑】**
岩津ねぎ【生野】

岩津ねぎは、江戸時代に生野銀山の役人が京都からネギの種子を持ち帰り、鉱山従事者の冬の生鮮野菜として栽培を始めたことがきっかけといわれています。現在では、博多の「万能ねぎ」、群馬の「下仁田ねぎ」と並ぶ日本三大ねぎとして、その名が知られています。朝来市の冬の特産品(11月下旬～3月上旬)として、市内の道の駅、国道312号沿いの直売所などで販売しています。



レトルトには昭和30年代と昭和40年代の2種類ある

店舗によって異なります (写真:ロクログ)



ハヤシライス【生野】

生野鉱山が最盛期を迎えていた昭和30～40年代、都会から転動してきた鉱山職員の社宅にはハイカラなものがたくさんありました。ハヤシライスもそのひとつで、洋食が珍しかった当時、生野の子どもたちにとって赤褐色の食べ物強く印象に残ったといえます。現在、復刻ハヤシライスの提供店が点在しており、当時の味をベースにした各店オリジナルの味が楽しめます。また、お土産用にレトルトパックも販売されています。

ハイカラな食文化

鉱山町のお祭り



生野踊り(盆踊り)【生野】

生野踊りは京都から移住してきた山師(江戸時代の鉱山経営者)が、盂蘭盆会の際の娯楽として、また、鉱山で亡くなった人への供養の盆踊りとして、都から踊りの師匠を招いて振り付けさせたことが始まりといわれています。「尺八」「三味線」「太鼓」「くどき」で構成されている行列踊りで、明治時代にはこれらの鳴り物の他に、「鐘」「小鼓」が加わっていました。

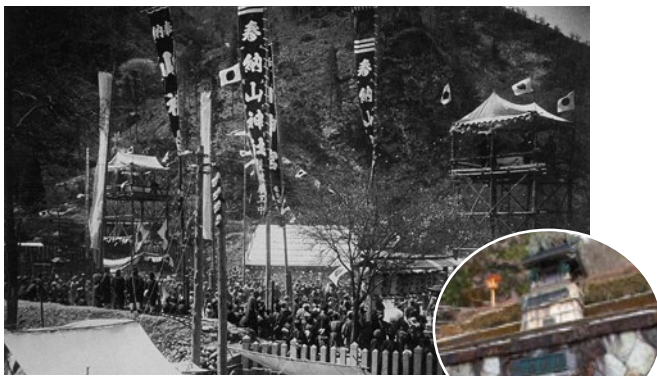
一元電車せんべい【明延】

「鉱石の道」明延実行委員会では、「鉱山せんべい」を復刻させたのに続き、第2弾となる『一元電車せんべい』を、「あけのべ憩いの家」・「あけのべ自然学校」で販売しています。焼印は鉱山従業員が生活雑貨などを買い揃えていた「購買会」のレジ袋の絵柄で、険しい山あいを勇ましく走り抜ける客車が印象的です。往時をしのぶ土産品として、注目を集めています。



1袋3パック入)900円

鉱山の風習



山神社(山神さん)

史跡生野銀山 観光坑道入り口

日本の鉱山には山で働く人々の安全と発展を祈願して、山の神が祀られています。3つの鉱山も同様で、鉱山の神様である愛媛県の大三島に鎮座する大山祇神社より分霊をいただき、山神社の社殿が建設されて御神体が安置されました。人々は「山神(さんじん)さん」と親しみを込め、毎年、春の大祭には鉱山も休業となって「山神祭」が開かれ、立派な神輿が町内を練り歩きました。また、各坑口の上にも山神さんが祀られています。

明盛共同浴場(第一浴場)【明延】

国の近代化産業遺産にも認定されている「明盛共同浴場(第一浴場)」跡。かつては6カ所も浴場がありました。「場」の文字が旧漢字なものも時代を感じさせます。鉱山生活者の共同浴場で、入浴料は無料でした。当時は芋の子を洗うような混雑ぶりだったそうです。現在は明延ミュージアム「第一浴場」として明延鉱山の鉱石や道具類を展示しています。



はぶち **羽淵鉄橋**
【神子畑】

神子畑鉄橋と同じく、明治16年(1883)に始まった鉱山運搬用道路の建設時に作られた鉄製二連の橋。「羽淵のめがね橋」とも呼ばれ、美しい洋式の橋です。平成7年(1995)に架橋時の姿に復元し、現在の場所へと移設されました。(兵庫県指定重要文化財)





□銀谷町並み散策ガイド



第七章

これからの 鉱石の道

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

01

主な地域の活動例



明延鉱山 道のイ

鉱石の道推進協議会…鉱石の道の価値、魅力の情報発信と地域活性化活用の推進
 「鉱石の道」明延実行委員会(養父市明延)…明延探検坑道、一円電車の保存、活用
 中瀬金山会(養父市中瀬)…中瀬金山・金山町の保存、活用
 神子畑区(朝来市神子畑)…神子畑選鉱場跡地の公園、神子畑鉄橋の保存活用
 口銀谷の町並みをつくる会…ボランティアガイドや鉱山文化の情報発信
 NPO法人いくのライブミュージアム…鉱山町の写真収集とデータ保存
 生野まちづくり工房井筒屋運営委員会…井筒屋の管理とひな祭り等地域活性化活動
 甲社宅運営委員会…旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館の管理とイベント運営
 南の浅田邸管理委員会…口銀谷銀山町ミュージアムセンターの管理運営
 生野ひいきの会…会員制まちづくり基金による地域イベントなどの支援
 銀谷祭り実行委員会…銀谷祭りの開催
 へいくろう祭り実行委員会…生野銀山へいくろう祭りの開催
 地域の活 をさらに活 化するための 法人化に けた り組みも んでいます。